

レスキューロボット「援竜・改」初の本格訓練実施！

地震災害現場を想定したビル解体現場にて、24時間実施

株式会社テムザック（代表取締役 高本陽一 本社：福岡県北九州市、以下テムザック）は、2004年12月9日（木）～10日（金）に**第17回北九州市国際消防救助隊訓練**の中で、レスキューロボット「T-52 援竜・改」の本格的な性能テスト、救助訓練を実施します。

「T-52 援竜・改」は、テムザックが北九州市消防局、独立行政法人消防研究所、京都大学等と本年3月に開発した双腕のレスキューロボットの改良機です。災害現場などで人間の数倍の力が必要な作業を行う事や、救助隊員などが近づく危険な場所で遠隔操作によって作業の代行を行う事などを目的に開発され、現在、北九州市消防局とテムザックで性能テストや改良などを繰り返しております。

今回、地震災害を想定した北九州市消防局主催の国際消防救助隊訓練の現場で、性能テスト、救助訓練を実施します。この訓練は旧・市立福祉文化センター解体現場（北九州市戸畑区）を地震災害現場と想定し、救助隊員が一昼夜（24時間）ローテーション活動により救出活動を行うものです。

このような瓦礫が積みあがっている状況下で、レスキューロボット「T52 援竜・改」の性能テストや、倒壊の危険のあるビル内に残っている要救助者を救助する想定で、レスキュー隊員が救助活動する前に安全な場所からの遠隔操作によってロボットを侵入させ、状況を確認したり、救助作業の障害となっている瓦礫を、乗用または遠隔操作により除去し、救助活動を支援するといった作業を試みます。

災害現場を想定したビル解体現場での大型レスキューロボットを利用した訓練はこれまでに例がなく、今後、現場で得た性能テストデータや救助活動での要求項目を抽出、分析し、2005年内に実用機を開発していく予定です。

実施日時 2004年12月9日（木）午後12時～10日（金）午後12時 雨天決行
場所 北九州市戸畑区千防一丁目1番（旧）市立福祉文化センター
内容 ロボットへの乗用操作および遠隔操作での性能テスト（随時）
国際消防救助隊と連携した救助訓練（10日午前10時～11時頃実施予定）

本件に係るお問合せ先： 株式会社テムザック 事業戦略部 藤田・檜山
TEL 093-581-5353 FAX 093-581-3521
当日夜間連絡先 080-1707-3381
E-mail info@enryu.jp T-52 援竜ホムペ URL www.enryu.jp

[T52 援竜・改]

- * 04年3月からの改良点
- ・手先アタッチメント変更
(クロウタイプ)
- ・遠隔操作装置ジョイスティック
方式変更
- ・手首回転自由度追加
- ・頭部ズーム機能付き暗視カメラ
追加(デイナイト機能)



データシート

T-52 援竜・改 本体

寸法・重量	全高約 3.45m 全幅約 2.4m (左右腕部全開長約 10m) 全長約 3.5m 総重量約 5t
動作自由度	頭部 1 頭部カメラ部 1 腕部 16(8×2 腕) 手部 2(1×2 腕) 胴部 1 排土板部 1 走行部 2(1×2 部) 計 24 自由度
駆動方式	油圧駆動方式
油圧設定圧力	250kg/ c m ² ・210kg/ c m ² ・140kg/ c m ² ・100kg/ c m ²
動力源	水冷 3 気筒直噴式ディーゼルエンジン (上半身の制御、走行部等、各稼働部の電源はディーゼルエンジンで 発電も行うため、燃料がなくなるまで電源供給可能)
走行機能	クローラ(キャタピラ)仕様 走行速度:最高約 3km/h
撮影機能	有効 68 万画素 CCD カメラ×8 頭部 1、胴部 6(前後各 1・左右各 2) 腕部 2(左右各 2) ズーム機能付き暗視カメラ 頭部×1(デイナイト機能)
手先アタッチメント	クロウタイプ
カメラモニター	液晶カラーディスプレイ×7
操作方式	乗用操作 + 遠隔操作両用

遠隔操作装置

寸法・重量	全高 1m 全幅 1.2m 全長 1.8m 総重量約 120kg
操作方式	マスタースレーブ方式 / ジョイスティック方式
カメラモニター	分割表示式液晶カラーディスプレイ×2 液晶カラーディスプレイ×1
通信	無線 LAN 方式 簡易携帯電話(PHS)方式

開発メンバー

防災ロボット開発会議

